



第20回 日本祭り 20年のあゆみ

18万2千人が入場 20° FESTIVAL DO JAPÃO Público 182 mil pessoas



食広場はどこも満席

7月7日から9日まで、東京都を除き46県人会が各種郷土料理を、また慈善団体などの食、54ブースが出店。また大小の日系企業が協力参加した、第20回日本祭りが例年通り、EXPO IMIGRANTES 会場で開催され、好天に恵まれ昨年を上回る18万2000人の入場者が会場を訪ずれ賑わった。

祭りのテーマは20回目に相応しく「20年のあゆみ」で、会場面積は4万平方メートルの巨大展示場で、日本祭り初回から毎年出店している岩手県人会。



岩手の郷土食、温かい「けんちん汁」を作った。当時の県連会長が参加し美味い。各県には自慢の郷土料理があるはず。と、ヒントを得て「郷土食」や「郷土芸能」を加えて「日本祭り」の発端となった、

ふり返ると、パウルスタの Banco Real やスザノ市の日本人会館で各県の物産などを展示した経緯がある。前にも書いた記憶があるが、当会で3県人会青年部で寿司まつりを行い、寒い時期でもあ

県連で検討を重ねた結果、第1回は各県の郷土食・芸能を主体に

1998年イビラブエラ公園内マルキーゼ広場で22県人会が参加。3年くらい開催。次いで同公園内の育苗（苗を育てる）会場、州議会

駐車場などを転々。岩手の食

は「餅」。広場で餅つき体験など当時と

しては大変な人気だった、また、「わんこそば」の競技を行ったこともあった。郷土物産展示、芸能は「盛岡さんさ踊り」などを披露。入場料なしで行われた。

会場の問題もあり第9回目から将来の来場者を見込み、現在の広大な EXPO・IMIGRANTES 会場で行われるよ

うになった。屋外では食広場に食ブースや食広場のテントを張り、屋内では日系協賛企業や各種バザー店などが並んだ。



4年前から会場の大規模な再整備が行われ、交通アクセスの利便性や新駐車場4500台収納、屋内展示場も拡大工事がなされ、18回目から屋内が主会場となった。

さて、県人会では日本祭りに向けて金糸卵やコロッケ（Mandioca 芋を使用）を2000個以上つくり、冷凍して備えた。



7日（金曜）、正午から開店。食品は例年どおり「三陸わかめうどん、コロッケ、コロッケ弁当、餃子、飲物」を販売した。平日のため幾つか未開店の県人会もあったせいか当会では思いのほか売れた。

2日目、11時からメインステージで開会式が行われ、各団体・協賛企業、日系議員に来伯中の農林水産省の細田健一政務官（新潟初代カローラ 県出身）、在日本国佐藤悟大使、中前隆博サンパ



ウロ総領事が並び、山田県連会長は日伯両政府、また多くのボランティアにも感謝を表した、細田農林政務官からも賛辞があった。最後に日系議員から離伯する中前総領事に記念プレー

トを贈呈、総領事は「日伯の永遠の友情を願って」と音頭をとって鏡割りを行い式典が終了。

スポンサーや関係者を招いたカクテルパーティー会場では、各県人会自慢の料理を試食しながら懇談した。

全会場はお客さんが溢れんばかりの盛況で、食広場はどこも満席。各ブース前は行列が出来、大盛況で賑わった祭りであった。

大パビリオンでは、スポンサー関係、企業、JICA、福祉団体、バザリスタ、高齢者や子供の広場、小舞台など所狭しと設置されていた。

スポンサーの大所は、トヨタ、ホンダ、ニッサンと三大自動車が出展。トヨタは乗用車カローラ生産 50 周年とかで、初代カローラが展示されていたのが目を引いた。

芸能部門では岩手県人会の「雷神太鼓」も日頃の練習を活かし大観衆を前に演奏し大きな拍手をうけた。



来年は「日本移民 110 周年」。実行委員会（菊地義治実行委員長・岩手）では、2018年7月21日（土曜日）に「日本祭り」会場場で式典を開催する。菊地委員長は再訪日し各県や関係先を訪ね、郷土物産品の展示宣伝に努めて欲しいと働きかけている。

最後にお手伝い頂いた方々に心から感謝申し上げます。来年もどうか宜しくお願い致します。

20 ANOS DE FESTIVAL DO JAPÃO

Nos dias 07, 08 e 09 de Julho, foi realizado a vigésima edição do Festival do Japão, maior evento de cultura japonesa fora do Japão, organizado pela Federação das Províncias do Japão no Brasil - KENREN. A idéia de criar o festival surgiu em 1997 durante o Festival de Sushi realizado pelo Iwate Kenjinkai, quando o então presidente do KENREN sr. Yataro Amino provou e aprovou o "Kentin-Jiru", sopa típica de Iwate. O sr. Amino lembrou que cada província tem a sua comida típica e então teve a idéia de reunir as 47 províncias em um único e grandioso evento de divulgação da cultura e da gastronomia japonesa. Surgia aí o Festival do Japão, organizado pelo KENREN, que já no ano seguinte teve a sua primeira edição. De 1998 a 2001, o Festival do Japão foi realizado no Parque do Ibirapuera, com o apoio da Prefeitura de São Paulo, e até o ano de 2004, no pátio do estacionamento da Assembleia Legislativa. Em 2005, a partir da 8ª edição, em busca de maiores instalações, o FESTIVAL DO JAPÃO foi transferido para o Centro de Exposições Imigrantes (atual São Paulo Expo Exhibition & Convention Center), na Zona Sul de São Paulo. O Iwate Kenjinkai se orgulha de ter participado de todas as edições do Festival do Japão. De 1998 até 2007 o Iwate Kenjinkai ficou famoso por vender Moti. A nossa barraca sempre foi uma das mais visitadas do Festival, poque o moti era batido e preparado em frente a barraca. Quando começávamos a bater o Moti, uma multidão se aglomerava para ver, tirar fotografias e algumas pessoas até pediam para bater o Moti.



O Festival do Japão de 2018 será realizado nos dias 20, 21 e 22 de Julho e o tema será os 110 anos da imigração japonesa no Brasil. A cerimônia comemorativa oficial, será realizada no mesmo local do Festival do Japão, dia 21 (sábado), no auditório do convention center. O presidente da Comissão Organizadora dos 110 anos de imigração é o Sr. Yoshiharu Kikuchi que também é presidente de honra do Iwate Kenjinkai do Brasil. De acordo com o sr. Kikuchi, está previsto a exposição de produtos típicos de todas as províncias do Japão e também a presença de comitativas e representantes do governo e autoridades.

Agradecemos aos voluntários e a todos os colaboradores que contribuíram para realização com sucesso de mais um Festival do Japão e aproveitamos para solicitar ajuda para o próximo ano que será especial devido a comemoração dos 110 anos de imigração.

- 6月 28 県連代表者会・日系団体主催による中前隆博総領事送別会が文協貴賓室で行われ会長出席
- 29 総領事公邸で中前総領事招待のお別れ会に会長出席
- 7月 7, 8, 9日、第20回日本祭り開催 大勢がお手伝い
- 22 JICA 調査団で来伯した遠野市在の佐々木 栄洋さんと多田、田口両副会長懇談
- 26 国吉ニルソン、瑞穂夫妻（賛助会員、瑞穂さんはアルゼンチン県人会武藤嵩元会長の娘さん）学会参加後、富田さんと来館（写、右）
- 27 秋田会館で県連代表者会あり 会長出席
- 28 多田、田口両会長、サ紙記者にて CBDV 会長をブラジル代表の



サブ・キャンプ地願いに訪問
 30 日本まつり慰労会あり、後刻来伯中の佐々木さん（遠野市）、団員、菊地名誉会長を交えて懇談
 8月4日 賛助会員で東京首都大学教授丹野清人先生とお嬢さん来館
 12 8月度役員会開催
 14 名原幸造さん（行年83才の急逝の報に会長サンベルドの墓地で執り行われた葬儀に会長出席

- 25 山口 彬 新ブラジル大使歓迎会に会長出席
- 27 静岡県人会（会長）、千葉県人会（多田副会長）にお祝い持参

寄付・寄贈 寸志、図書、お茶菓子多数

事務所来場者記録（1階利用者は含まれておりません）

6月 350名、 7月 343名、 8月 371名

図書利用者記録

6月 461冊 - 103名、 7月 504冊 - 112名、
 8月 446冊 - 98名、

ブラジル岩手県人会賛助会員会費納入者

（平成29年度、国際交流協会より、岩手県、他県在住、敬称略）

吉田恭子（盛岡市、2014年-2023年まで納入済み）、清水泰宏・キミ子（盛岡市）、藤沢清美（盛岡市）、真崎良平（滝沢市）、松本トミ（山田町）、菅原圓雄（盛岡市）、東根千万億（盛岡市）、一戸和（盛岡市）、熊谷澄子（盛岡市）、斉藤好弘（盛岡市）、坂本洋（盛岡市）、鈴木直志（盛岡市）、高橋良平（盛岡市）、中村一郎（盛岡市）、藤村とも子（盛岡市）、武藤千賀子（盛岡市）、吉田英子（盛岡市）、小田島栄（北上市）、伊藤栄喜（北上市）、佐々木栄洋（遠野市）、和賀武耕（奥州市江刺区）、久慈浩介（二戸市）、山澤順三（矢巾町）、佐藤節夫（金ヶ崎町）、小関浩喜（金ヶ崎町）、桑島治仁（金ヶ崎町）、沼崎喜一（山田町）、菊地光明（山田町）、大和田加代子（陸前高田市）、三上牧蔵（盛岡市）、工藤容子（盛岡市）、山本サツ子（盛岡市）、藤村秋夫（静岡県伊東市）、岩船信一（神奈川県藤沢市）、増田稲子（神奈川県川崎市）、杉村延広（大阪府堺市、5年分）、官野一成（北上市）、黒澤實（新・山田町）、菊地克昌（新・盛岡市）、玉沢徳一郎（盛岡市）、国吉瑞穂・ニルソン（東京都）、滝川良一（八幡平市）、

★ **会員の皆様へ**

ブラジル岩手県人会へのご支援ご協力に、心より感謝申し上げます。今後も母県皆様との交流促進に励む所存ですので、今後とも宜しく願い申し上げます。

- ☆ 第63回会員交流誕生会あり
- 31 県連代表者会に会長出席
- 9月3日 埼玉県人会60周年、県民移住100周年式典に会長出席
- 7 ブラジル独立記念日
- 9 役員会開催 議題はスケジュール、2018年8月の創立60周年記念誌発行、県人会活性化など
- 28 県連代表者会に会長出席



お知らせ（内定）

2018年は「日本移民110周年」を迎えますが、ブラジル岩手県人会は「創立60周年」「県人移住100周年」を迎えます。

式典時期を本会、県庁、賛助会員の会、岩手民謡協会にて会さんと日程について検討した結果、2018年8月26日開催が内定いたしました。

祝典には県庁、芸能団、慶祝団など、また大活躍中の岩手の歌手「福田こうへい」さんの参加も予定されております。

Em 2018 vamos comemorar os 110 da Imigração Japonesa no Brasil e também os 60 anos de fundação da Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil e 100 anos da chegada do primeiro imigrante de Iwate no Brasil (Miyoji Onodera). A data prevista para realização da cerimônia de comemoração é 26 de Agosto de 2018 e o local da comemoração será informado em breve. Para a comemoração está previsto uma comitiva de Iwate com os sócios colaboradores, Governador, Presidente da Assembleia Legislativa, assessores, grupo de Minyo e estamos com esforço para trazer novamente o cantor FUKUDA KOUHEI.

2017年度執行役員副会長名補足

県人会報196号で執行役員副会長の「平野マリア（Maria Hirano）^{ひらの}さんの名前が記載漏れでした。お詫び申し上げ補足致します。

会費納入者名 2017年度（2017年6月14日以降）

- 大崎 みどりリリアン（Lilian Midori Osaki）、
- 7月 菅原正芳（Masayoshi Sugawara）、切田諒美（Masami Kirita）、石井克美（Ishii Katsumi）、工藤五三郎（Gosaburo Kudo）、児玉剛一マウロ（Mauro Goiti Kodama）
- 鈴木昭仁（Akihito Suzuta）、稗貫義友（Hienuki Yoshitomo）、
- 8月 泉政秀（Masahide Izumi）、志賀光（Hikari Shiga）、渡辺誠一（Seiichi Watanabe）、及川まゆみ（Mayumi Oikawa）、
- 9月 猫塚司（Mori N)ekozuka）（9月24日まで）

逝去者

名原 幸造さん（Kozo Nahara, 行年83才、江刺市出身）は、8月13日病氣療養中でしたが昇天されました。（1958年コチア青年移住）

菊池 けいこさん（Keiko Kikuchi 行年72才、菊池透さん夫人）は、長らく病氣療養中でしたが、8月28日逝去されました。

お知らせを頂いた方々のご冥福を祈ります。

グアタパラ移住地入植55周年式典

労苦を共に 先人慰霊祭・収穫祭



(グアタパラの林義雄さん宛てからの返信による)に、岩手県人の及川ジョンさんと父親の儀一さん(金ヶ崎)が記録にあると話したところ、前村さんの父親が及川儀一さんの仲人をしたと聞き驚いた。記念誌作成に関わった地元(林)さんが、説明された方はバリニャ市在住の前村与吉氏(鹿児島県出身)の子息にあたりこのバリニャ市に及川氏の親族

各地から集まった人々

戦後移住地として栄えるグアタパラは(Fazenda Guatapar)入植55周年記念式典と収穫祭へ誘われ、7月21日正午過ぎ、大中型観光バス2台で宿泊予定のリベロン・プレット市へ。(約320km)

途中 Parque Estadual Vassununga, municipio de Santa Rita の原生林を1.5km入ると、500年も経つという大木

Jequitib-Rosa を見学。幹直径4m、周りは10人以上が手を繋ぐ位の太さで高さ40mもあ



と記してあった。写真上 大木を・・・私の「目的」は、県人名簿を記念誌にと整理中、グアタパラ地方に父・及川儀一さんの息子ジョンさんの名が記されていた。もう一つは入植当時川の氾濫や水不足など灌漑設備に携わった当時、農林省勤務の菅原圓雄さん(花巻)が調査やポンプ設置に関わった話を思いだし参加した。翌22日60km移動してグアタパラ移住地着。早速先亡者慰霊ミサに参加。当地のキリスト教会と農事協会の慰霊祭で、在住者や元移住地出身者、サンパウロの主要団体などが参加。各々が用意された花を添え先人達の霊をねぎらった。写真下はは合同ミサ風景



式典は、地元農事協会、関係団体長や主な入植者の出身地、茨城、山形、長野、岡山、島根、山口、佐賀の7県人会代表者が出席。また、功労者表彰などもあった。収穫展示場には、主要産業の立派な鶏卵、レンコン、果物にさまざまな野菜類が展示されていた。また、歴史を物語る写真展もあり、写真を見ていた前村ジョルジさん

が在住しておりますと返事があった。現在、岩手県人移住者やその子弟まで数々の資料から整理しているが、1933年、佐々木鞆五郎さん一家(義父専蔵の構成家族、川井村出身)が、入植していた事が判った。県人会調査によると5、6回転住されイビウナ市にいた頃が載っている。他にも県人がいた記録がでてくると思う。「結果」として岩手県人が同地方に入植したのは、戦前だったようである。

グアタパラ移住地(周辺なのか)には、戦前の県人入植者がいた記録があり、当時低地では主に米作などに従事したという話である。が、日本人の主食は米。水が引ける川(モジグアス)の近くに水田を造成するが、当



佐々木鞆五郎さん一家 イビウナにて記録にある。

グアタパラは、戦後 JAMIC 主導で移住地が形成され、開発青年隊など先発隊が耕地造成に関わったようである。だが、やはり乾季には作物に水が足りない、雨季には洪水で逆に水を川に戻す灌漑設備の必要性に迫られたようである。

「灌漑設備」について林さんに訊ねたところ、調査員として日本から松谷俊夫、夏秋幹氏等が来伯。1958

移住地特産のレンコン

1959年10月～1959年8月の10ヶ月間に終了し





左・4気筒、右・6気筒のエンジンとポンプ



ていますと。

1963年2月に日本から揚排水ポンプが到着。施行担当は外務省管轄下にある移住振興会社 (JAMIC) でした。とあった。

グアタバラ 移住地に詳しい、伊東信比古さん (大分) に、ポンプの所在を聞くと鳥居がある広場に保管されているとの事で写真に収めた。屋根つきの保管所に、灌漑ポンプが2基あり、エンジンはヤンマー製4気筒と、6気筒がありポンプのサイズもエンジンによって大きさが違っていた。使命を終え大事に保管されていたポンプを見て、植民地皆さんの歴史を物語っているようで、脳裏に深く刻まれた。

「祝賀会」さて、式典の祝賀会は農事協会大サロンに、参列者や招待者など広間いっぱいの人たちが懇談しながら、当時の思いで話しに尽

きなかつた事と推察した。同移住地には2003年、当時の総理大臣小泉純一郎首相が、たつての希望でヘリから下り入植者を激励したと、新聞記事を読んだ記憶がある。記念碑があり、大きく「感動」と刻まれ、笠戸丸移民18家ぞくいみんなさんかんとくひらのうんべいひ族を移民船監督平野運平が引きつれ入植した「日本移民ゆかりの地」と記されていた。



63 回会員交流誕生会 Confraternização e Aniversariantes



8月27日、第63回目の会員交流誕生会 (5・6・7・8月生まれ) が行われた。多田副会長の司会で開会。千田会長は来年度の県人会60周年記念式典は、県庁や慶祝団皆さんの意向もあり2018年8月26日開催予定となったことを報告した。

折から、来伯中の首都大学東京の丹野清人教授 (県人会賛助会員) の「ブラジル人デカセギの今」について日本の労働人口について簡単な統計を基に講話があった。

日本では、高齢化や少子化により労働力人口が毎年新規に30万人が必要である。人手不足を外



ているのが現状で、ブラジル人 (日系人) について法務省では、4世にワーキングホリデービザを検討中であるが、むしろブラジル日系人に定住ビザを4世まで設定したほうが、デカセギ者には魅力があると話していた。

祝杯は丹野先生の音頭で乾杯。食事会では皆さんが久しぶりの交流を行った。皆さんお待ちかねのビンゴの賞品に「出たー」とゲームに興



じていた。5月から8月生まれの誕生者をケーキの前に祝った。丹野先生の娘、花月さん (ハナちゃん)

もブラジルで誕生日を祝って貰ったと喜んでいた。

誕生者には県人会が用意した記念品 (気持) が贈られた。引き続きのど自慢者が「カラオケ」など楽しみ楽しい一日を過ごした。



63º CONFRATERNIZAÇÃO DE ASSOCIADOS

Foi realizado no dia 27/08 a 63º Confraternização de associados e aniversário para os nascidos nos meses de maio a agosto. Neste dia tivemos a ilustre presença do professor doutor Kiyoto Tanno da Universidade Metropolitana de Tokyo que fez palestra sobre a situação dos dekassegus no Japão.

次世代の新幹線開発へ JR 東北

時速360kへ試験車両



JR 東日本は4日、「次世代の新幹線開発を目指し、新たな試験車両「ALFA-X」導入すると発表した。現在より40キロ早い時速36キロ

での営業運転に向け安全性や快適性を検証し、北海道新幹線が札幌

まで延伸する2031年春ごろまでに完成させる方針。

技術的には東北新幹線盛岡 - 東京間を2時間以内で結ぶことも可能とみられ、現実に期待が高まる。JR東によると、アルファエックスは10両編成で、試験での最高速度は400キロ程度。19年春に完成させ、主に東北新幹線で試験走行する。

高速走行時に問題となるトンネル進入時の騒音を抑えるため、新幹線の先頭車両は「鼻」を長くしている。アルファエックスは両端の一方の鼻を現行のE5系と同程度とし、もう一方はさらに長くして効果を検証する。地震で大きく揺れても脱線しにくい台車や、走行時の揺れを少なくする装置を搭載。騒音が少ないパンタグラフやブレーキを開発するデータも集める。【写真^JR東日本が導入する新たな新幹線の試験車両のイメージ（JR東日本提供）】(2017/07/05)

「南部美人」がチャンピオン IWC日本酒部門

世界的なワイン品評会、インターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）の授賞式が英国ロンドンのホテルで6日夜（日本時間7日朝）開かれ、日本酒部門の最優秀賞「チャンピオン・サケ」に二戸市福岡の南部美人（久慈浩介社長）の純米酒「南部美人 特別純米」が選ばれた。県内の蔵元の同賞受賞は、2007年の同部門創設以来初。

受賞者ら約800人が出席。久慈社長は「南部杜氏の酒造りと日本の酒が世界に認められた。社員や酒米農家を含む全員で勝ち取った栄誉だ」と喜んだ。

日本酒部門は全国の蔵元などが1245点を出品。4月に銘柄を伏せた審査を行い、南部美人は同部門の純米酒の中で最高の「トロフィー」を獲得。さらにトロフィー9銘柄でトップのチャンピオンとなった。

【写真=「南部美人 特別純米」が日本酒部門の最優秀賞に輝き、授賞式で満面の笑みを広げる久慈浩介社長（右から2人目）=6日、ロンドン】(7/07/08)



世界長寿10位、114歳祝う 花巻の伊藤さん

花巻市天下田の特別養護老人ホーム「花巻あすかの杜」（佐々木俊幸施設長）に入所する県内最高齢の伊藤タエさんは11日、114歳の誕生日を迎えた。同日が100歳の誕生日だった慶長（けいちょう）もとさんと合同の誕生会が施設内で開かれ、家族や入所者約50人がさらなる健康長寿を願った。

記念品と花束を手渡した上田東一市長は「市内には100歳以上の方が50人以上いる。タエさんには花巻から長寿世界一を目指してほしい」と祝福した。伊藤さんは言葉こそ発しなかったが、家族の呼び掛けに時折うなずき、終始



穏やかな様子だった。

国際的な老年学研究者団体の米国ジェロントロジー・リサーチ・グループが4月に発表した世界長寿ランキングで、伊藤さんは世界10位と紹介された。日本人女性5人がランクインし、田島ナビさん（鹿児島県）が国内最高齢116歳で世界2位。1位は117歳でジャマイカのバイオレット・ブラウンさんだった。

1903年生まれは詩人金子みすゞ、版画家棟方志功ら。ライト兄弟が人類初の動力飛行に成功した年でもある。【写真=114歳の誕生日を迎え、家族から祝福を受ける伊藤タエさん】(2017/07/12)

浴衣姿で華やかに舞う

盛岡さんさ踊り開幕



盛岡市に夏の訪れを告げる「盛岡さんさ踊り」が1日、開幕し、色鮮やか

な浴衣姿の踊り手たちが和太鼓や横笛のリズムに合わせて、華やかな舞を披露した。4日までの期間中、県内外から257団体、約3万5千人が参加する。

開幕は暑さの残る夕暮れ時。踊り手たちは市中心部の1キロにわたる大通りで、幸せを呼び込む「サッコラチヨイワヤッセ」との掛け声を響かせながらパレードした。

踊りは、江戸時代に盛岡で暴れた鬼の退散を祝って人々が踊ったのが由来とされ、例年約130万人の見物客が訪れる。【写真=開幕した「盛岡さんさ踊り」で、太鼓や笛の軽快なリズムに合わせて街中を舞う踊り手たち=1日夕、盛岡市】(2017/08/01)

北上に「夏が来た」

みちのく芸能まつり開幕

第56回北上・みちのく芸能まつり（運営委主催）は4日、3日間の日程で開幕し、北上市のJR北上駅周辺の特設会場などで少年鬼剣舞や市民パレードなどを繰り広げた。

市内の鬼剣舞育成団体9団体の子どもたちが同市大通りで「一番庭」と「刀剣舞の狂い」の大群舞を披露。太鼓や笛、おはやしに合わせ、元気に舞った。

御免町鬼剣舞ジュニアの踊り手で出演した江釣子中2年の千田愛乃さんは「やっと夏が来たという感じ。観衆が多く緊張したけれど、練習の成果を出せた」と爽やかな表情で語った。

5日は正午から全国高校総合文化祭出場校の凱旋（がいせん）公演、鹿踊公演があり、午後6時10分からは神楽や鬼剣舞の大群舞を展開する。

【写真＝北上・みちのく芸能まつりが開幕し、元気に鬼剣舞の群舞を繰り広げる子どもたち＝4日午後8時19分、北上市大通り】（2017/08/05）



龍泉洞、入洞者 1500 万人達成 岩泉、関係者ら祝う



岩泉町の龍泉洞は31日、1961年のオープン以来の入洞者数が1500万人に到達し、入洞口前で記念セレモニーを

行った。昨夏の台風10号豪雨で被災し、今年3月の営業再開から約4カ月。関係者は「節目」を祝い、観光拠点として地域をけん引する決意を新たにしたい。

1500万人目の入洞者は、福島市笹谷から旅行で訪れた介護福祉士の男性（40）一家4人。龍泉洞の水や短角牛など町特産品が贈られた。伊達勝身町長らと共にくす玉を割った男性は「記念すべき日に立ち会えて光栄だ。福島県でも家族で鍾乳洞巡りをしており、良い記念になった」と喜んだ。

龍泉洞は61年4月1日に町営としてオープン。台風10号豪雨では地底湖が増水するなど閉鎖されたが、3月に再開。再開後は平年比1.3倍の約7万6千人が訪れた。【写真＝くす玉を割って入洞者1500万人到達を祝う関係者】（2017/07/31）

待ってた秋味、サンマの便り 宮古に初水揚げ

宮古市臨港通の市魚市場に23日、今季初のサンマが水揚げされた。昨年より20日遅い水揚げに浜はようやく活気づき、関係者は安堵（あんど）。市内の小売店には「宮古産」の札が付いた新鮮なサンマが並び、市民は待ちかねた秋の味を買い求めた。

午前6時に福島県いわき市の第11権栄丸（199トン）が銀色に輝くサンマ20トンを水揚げ。中型が多く、1キロ720～800円（前年比100円高）の値が付いた。

7月に廻来船誘致のため同市を初訪問した山本正徳市長は「水揚げは

（例年より）1カ月遅れたが、これから期待したい」と語り、宮古漁協の大井誠治組合長も「いつ来るか心待ちにしていた。先は見通せないが大衆魚のサンマを安く提供していきたい」と誓った。

【写真＝昨年より20日遅く初水揚げされたサンマ＝23日、宮古市・宮古港】（25/8/2017）



宮古市田老の三王岩で9日、磯の環境学習会（NPO法人立ち上がるぞ！宮古市田老主催）が行われた。東日本大震災発生から11日で6年6カ月。市民らは青天にそびえる壮観な奇岩を眺めながら、震災を乗り越えた自然のたくましさに触れた。



親子13人が、津波で破壊され今年3月に完成した階段で三王岩に下り、磯でヒトデやカニなどを採取した後、男岩（高

さ約50メートル）などを見学。同市上村の内海菜奏さん（磯鶏小3年）は「初めて三王岩を見た。大きくて驚いた」と目を輝かせた。

海のきらめき今も変わらず 11日震災から6年半

参加者は近くにある、津波で約30メートル流された津波石（重さ約200トン）も見学。マツの幼木が育つ津波石の光景に6年半の月日の流れを感じた様子だった。

名勝を多くの人に知ってもらおうと学習会を初めて開催した同NPO法人の大棒秀一理事長（66）は「昔は遊び場だったが、震災後は海に触れる機会がなかった。興味を持つきっかけにしてほしい」と願った。【写真＝青空の下、三王岩付近の自然を楽しむ親子ら＝9日、宮古市田老】（2017/09/10）

岩手県人会ニユース197号、ふるさとだより ⑪ 併合 2017年10月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



絶景パノラマ、紅葉見ごろ ミツ石山山頂

22日の県内は高気圧に覆われて晴れた。八幡平市と雫石町にまたがる三ツ石山（1466メートル）では山頂付近が紅葉に染まり、絶景のパノラマが広がっている。

ミネカエデやナナカマドが赤やオレンジに色づき、緑のハイマツと鮮やかなコントラストを描く。仙台市から訪れた会社員鈴木奈緒美さん（32）と会社員安部夏紀さん（32）は「写真で見ると、



うな景色が素晴らしい」と感嘆していた。八幡平市観光協会によると、山頂付近の紅葉は今月いっぱい見られそうだ。

【写真＝雄大な岩手山を背景に、一面赤やオレンジに染まる紅葉＝22日、三ツ石山山頂】
(2017/09/23)